



東京言語研究所 公開講座

ことばとコミュニケーションの発達

＜講師＞ 松井 智子氏

(東京学芸大学教授／言語学、発達心理学)

＜日時＞2017年6月17日(土) 14:00～17:00

＜会場＞東京言語研究所

(新宿区西新宿6-24-1 西新宿三井ビル13階 ラボ教育センター内)

＜参加費＞一般 2,000円

学生, ラボ・チューター 1,500円

*2017年度理論言語学講座受講生は1000円

※参加費は当日現金でお支払下さい。

定員
50名

＜申込み＞「ホームページ申込みフォーム」、もしくは「FAX(HPよりダウンロード)」で

お申し込みください。5月15日より申込開始

- ①公開講座受講希望 ②氏名 ③フリガナ ④性別 ⑤住所 ⑥電話番号
- ⑦Eメールアドレス ⑧区分(2017年度理論言語学講座受講生・一般・学生)
- ⑨所属(大学生・大学院生・教員・会社員・その他)



(上記情報は東京言語研究所事業以外には一切使用いたしません。)

講師
略
歴

専門は言語学と発達心理学。1995年にロンドン大学ユニバーシティカレッジにて博士号取得(言語学)。国際基督教大学、京都大学霊長類研究所を経て、2010年12月より東京学芸大学国際教育センター教授。著書に『子どもはうそ、大人の皮肉』(岩波書店)、『ソーシャルブレインズ』(分担執筆、東京大学出版会)、『ミス・コミュニケーション』(分担執筆、ナカニシヤ)などがある。

問合せ先

公益財団法人 ラボ国際交流センター 東京言語研究所

〒160-0023 東京都新宿区西新宿6-24-1 西新宿三井ビル16階

TEL:03-5324-3420 FAX:03-5324-3427

ホームページ:<http://www.tokyo-gengo.gr.jp/>

講演要旨
は裏面へ

【講義要旨】

私たちが社会生活を送る上で、コミュニケーション能力の重要性を疑う人はいないと思います。家族や友人と会話をするとき、教室で先生の話を理解するとき、仕事でプレゼンをするときなど、さまざまな場面でコミュニケーション能力が必要とされるので、高いコミュニケーション能力を持つことは生きていく上で有利だと考えられています。その一方で、今日、対人コミュニケーションに問題を抱えている人は少なくありません。実はコミュニケーション能力の発達や障害については、まだまだわからないことが多いのです。

子どものコミュニケーション能力は、言語の発達とともに飛躍的に伸びていきます。幼児期から児童期にかけて発達する言語を媒介としたコミュニケーション力は、目には見えない抽象的な現象、たとえば自己や他者の心理状態を推測することや、未来を予想することを含め、思考力や問題解決力の基盤となります。

本講義では、新しい研究成果をもとに、乳幼児期の言語とコミュニケーション能力の関係を概観した上で、先天的、後天的な理由により、言語コミュニケーション能力の発達が阻まれてしまうケースについても検討したいと思っています。先天的な語用障害を持つ子どもたちや、複数言語を獲得できる環境にしながら、どの言語も十分に伸びず、学習や思考につながる言語をひとつも獲得できない状況にある子どもたちの発達について、これまでにわかりつつあることを共有しながら、コミュニケーションに困難を抱える子どもたちへの支援についても皆さんと考えていきたいと思っています。